

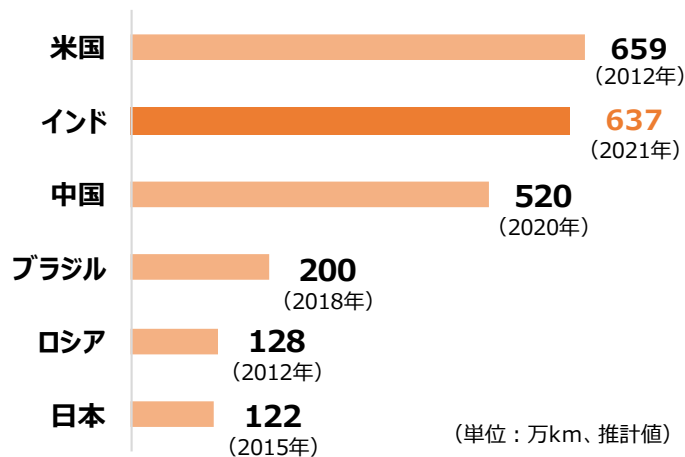
## 物流の改善が進めば成長が一段と加速すると言われるインド ～ 進められる物流インフラ整備と課題 - 道路網 ～

### パワフル・インド（政策関連） ～道路は続くよどこまでも～

#### ▶ 広大な国土に伸びる道路網

- ✓ 世界第7位の国土面積を有するインドですが、国土中を走る道路網の総延長距離は年々伸びており、米国に次ぐ世界第2位を誇ります。
- ✓ 道路整備は、1998年の国道整備計画に基づき、インド国道公団が主体となって進められてきました。
- ✓ 急速な経済成長とともに物流・人流も急拡大しているインドですが、道路網整備計画に対しての大幅な遅延も成長にとってのボトルネックとして指摘されるようになってきました。

#### 世界の道路総延長距離ランキング



#### ▶ インド物流の非効率性と改善余地の数々

- ✓ 事実、インド物流の問題点は以前から様々に指摘されており、その非効率性の改善は、経済の成長要因につながると考えられます。

#### インド物流の問題点

- 道路利用の輸送比率が約60%⇒ 鉄道や海運と比べて輸送コストが約2倍  
(米国や中国は約35%)
  - 高速道路の割合が極めて低い ⇒ 渋滞のため輸送時間が長くなる  
(2022年時点で1,643km)
  - 道路網から港湾への接続が悪い ⇒ 輸出用の港湾への運搬に時間が長くなる
  - 輸送効率が低い ⇒ 零細運送事業者比率高く、輸送効率の良い中大型トレーラーが少ない
  - 交通事故が多い ⇒ 車線が判然とせず、車道を人・牛が往来
  - 路面舗装状況が悪い ⇒ トラックの故障・事故につながる他、商品保護のための梱包資材が多く必要
- ✓ インドの物流インフラ整備のために、日本からも多額の政府開発援助（ODA）が投じられているほか、物流インフラ整備事業を行っているインド現地企業の多くが活躍しています。インドのセメント製造企業も、その一翼を担っています。インドのインフラ関連企業は、インド政府の計画に基づき、着実に成長していくことが期待されます。
  - ✓ 「風が吹けば桶屋が儲かる」ということわざがあります。一見すると全く関係がないと思われる場所・物事に影響が及ぶことのたとえを表していますが、インドの経済成長を考えた場合にも合致するところがありそうです。道路をはじめとする輸送インフラ整備による恩恵は、多種多様な産業にプラスの影響を与えるものです。
  - ✓ 足もとでは、全国の国道料金所における自動料金支払いシステム「FASTag（いわゆるETCシステム）」の義務化や、首都ニューデリーと商業都市ムンバイ間の同国最長高速道路の一部の区間が開通するなど、今後もインド物流の非効率性が近い将来改善されていく過程で、インド製造業全体の生産性が一段と高まることが期待できそうです。

## ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会